

わたしが産まれる（短縮版）

作 木村 繚真

〔登場人物〕

舟喜さくら	高校一年生
映見	さらの母
杏奈	さらの姉。四つ違い。
水島めい	高校二年生
由梨(Julia)	
ヨン(Jon)	由梨の息子。さらと同じ年。
徳ちゃん	映見の従兄
トロール	（あの男／男子生徒／男V／客）

※注意※

本作品には性暴力の描写が含まれています。ご注意ください。

1 自室

音楽。幕があく。

舞台上には白い机が一つと、白い椅子と赤い椅子がそれぞれ複数点在している。その一つに、制服姿（スラックスを着用）のさらが座つており、日記を書いている。別の椅子の背もたれには、クリップでハンガーに留められたスカートが掛けてある。

命が芽吹く春。私は高校一年生になつた。新学期が始まつて二週間。みんなはクラスに馴染んできている。私の後ろに座つているはずの、めい以外は。母親を亡くすつらさを、私は想像できない。今日は来るかな。来てくれたらいいな。

あの男がやつてくる。遠くから、さらをじっと見ている。さらはその気配に、怯えた様子で顔を向ける。目が合い、すぐに背けて縮こまる。そこへ映見の声。

映見 さらー。

映見、やつてくる。あの男、ゆっくりと去つていく。

さらは日記を隠す。

映見（ドアをあけ、）あ、起きてたの？

さら ノックしてよ。

映見 遅れるよ。

さら わかつてる。

映見 (スカートを見て) あ、ねえ、

さら なに。

映見 スカート、穿かないならしまっておかないと。

さら わかつてるって。

映見 せつかく買ったのに。

映見 もう行くから、はい、出てつて (映見を部屋の外へと押していく)。

映見 今夜勤だから。

さら はいはい。

映見 カレー入ってるからね。

さら はいはい。

自身も部屋から出て、去っていくさら。見送る母。

映見 いつてらっしゃい。

映見の視線はスカートへと移り、手に取つて、去る。

2 教室

さら、俯きがちに教室へ入る。自席に目をやると、その後方の席にめいの姿。遅れて男子生徒も入り、隅の席に座る。

さら めい?

さら、めいに駆け寄る。振り向くめい。

さら 心配したよー。

めい ごめん。

さら ごはんちゃんと食べてる?

めい ぼちぼち。

さら 干し芋は?

めい 干し芋は食べてる。

さら 主食干し芋かよー。

めい バリエーションすごいんだよ? 干し芋。

さら どんな?

めい 焼いて海苔巻いてお醤油つける。
さら えー。

めい 干し芋と干し芋の間にチーズを挟んでレンジでチン。
さら それ何バーガーなの。

めい 干し、チーズバーガー?

さら 芋どこいったの。

めい 確かに。

さら つてかノート、コピーしたやつ貰った?
めい あれすごい助かった。

さら よかつたー。

めい 全然読めなかつたけど。

さら うそそ、なんとか読めた。

めい なんとかかよー。

さら えつ。

めい (首を横に振り、)……ほんと、ごめん。

めい 謝らないでよ。

めい 連絡くれてたのに、返信しなくて、

さら いいってば、気にしなくて。こうやつて、これたんだし。ね?

めい (小さく頷き、) また同じクラス。

さら うん。奇遇だね。

めい (微笑み) キグー。

さら、鞄の中の教科書を机の中に移す。

めい さらはや、
さら ん?

めい 両親の、持病とかつて知つてる?

さら 持病?

めい アレルギーとか、糖尿病とか。

さら なんだつたかな。お父さんがハウスダストがどうとか、お母さんは胃が弱いとかなんとか。

めい うろ覚え?

さら なんか、あんまりピンとこなかつたのかも。

めい うちのお母さん、乳がんだつたの。遺伝性の。

さら ……。

めい 一回治つたと思つたんだけど。

さら 結構、前からだつたんだ?

めい うん。

さら ……。

めい まだ四十五歳だった。

さら めい、めい 今のうちから、知つておいたほうがいいよ。身近なことだから。
さら ……。

チャイム。

二人 きりーつ。きをつけー、れい。おはようございまーす。

さら、正面に向かって座る。照明、さらうに集まる。めい、男子生徒、去る。

さら（日記を広げ、）ついにめいが学校に来た。春休みの途中で連絡が取れなくなつて以来、久しぶりに話をした。ずいぶん痩せたねつて言うと、「イエーイ」つて、無理矢理笑つてくれていた。今にも泣きだしそうな顔。朝から、帰りまで、ずっと。……めいの力になるには。めいの考えていること、私も考えよう。

日記を閉じる。

3 舟喜家リビング・夕方

杏奈、帰宅。

杏奈 ただいまー。

さら どしたの。

杏奈 なに、第一声がそれ？

さら 何かあったの？

杏奈 なんかないと帰つたらダメなの？

さら あ、退学になつたとか？

杏奈 なんですよ。

さら お盆も正月も帰つてこないのに。

杏奈 いいでしょ別に。

さら 私はいいけど。

杏奈 冷たい妹。

さら あ、カレー。まだあつたかいと思う。

杏奈 お母さん夜勤？

さら うん。

杏奈 お父さんは？

さら お風呂。

杏奈、タバコを吸おうとする。

さら
ねえやめてよ。

杏奈
アンタまで言うの?

さら
ぶんえん。

杏奈
肩身せまつ。外けつこう寒いんだけど。

さら
バレたらお父さんうるさいよ。

杏奈
ほんと。女だからなんだつーの。別にいいでしょ自分の体なんだから。もーつ。

杏奈、タバコをしまつてカレーの用意を始める。

さら
……あのさ、

杏奈
んー?

さら
お母さんの両親について、会つたことある?

杏奈
(少し考え)ない。

さら
やっぱそうなんだ。

杏奈
あるの?

さら
ない。

間。

杏奈
え? なんの話?

さら
いや、なんか気になつて。

杏奈
急だな。

さら
ほら、ここお父さんの実家じやん? 私たち、生まれてからずっと、父方のおじいちゃんとおばあちゃんとは一緒にいたわけじやん? でも母方のには会つたことないなつて。

杏奈
今さら?

さら
そうだけど、お姉ちゃん気になつたことないの?

杏奈
ないけど、お父さんは亡くなつたつて聞いたよ。

さら
えつ、お母さんのお父さん?

杏奈
うん。なんかすんごい酒飲みで、確か食道がんつて言つてたかな。

さら
それいつ聞いたの?

杏奈
えー、結構前。

さら
そんなの私知らない。

杏奈
ちつちやかつたんじやない?

さら
四つしか違わないじやん。

杏奈
充分でしょ。

さら え、じゃあお母さんのお母さんは？
杏奈 わかんない、憶えてない。

さら テキトー。

杏奈 訊いてみりやいいじやん。

さら 何を？

杏奈 なんか訊きたいことあるんでしょ？

さら 踏み込んじやいけない感じしない？

杏奈 別に。

杏奈 お姉ちゃんのほうが冷たいと思う。

杏奈 まあ早く家から出たかったしね。あんたも長いこといなほうがいいよ。

杏奈 ん。

杏奈 あー、やっぱ無理。

杏奈、タバコを出して外へ去る。

さう 確かに、これまで気にしたことがなかった。疑問にさえ思わなかつた。母の父親はいつ亡くなつたのか、母親のほうはまだ生きているのか、だつたらどうして会つたことがないんだろう……私は、母のことをほとんど知らない。産まれたときから、母を母としてしか、見たことがなかつたのかもしれない。

4 舟喜家リビング・翌朝

映見、帰宅。

映見 あれ？ おはよう。

さら (頷く)

映見 休みなのに早いね。

さら おかげり。

映見 めずらしい。

さら なに。

映見 (笑み) ただいま。

映見、冷蔵庫の中を開け、

映見 どうだつた？

さら カレー？

映見 うん。

さら シーフードも、たまには悪くはないかな、

映見 やつた。
さら ……ねえ、
映見 ん?
さら 朝つていうか、夜勤あけに話すことじゃないかもだけど、
映見 どうしたの?
さら お母さんの父親つて、がんで亡くなつたの?
映見 うん。
さら それ言つたことあつた? 私に。
映見 一緒にお墓参りに行つたの憶えてない?
さら お墓参り?
映見 お母さんの父親、つまりさらのおじいちゃんと、私の育ての親の墓。
さら 育ての親つて、どういうこと?
映見 実の両親は離婚したの、私が三歳のとき。暴力のせいで。
さら ……どつちの?
映見 父親の。

男V、入る。目をみひらき、遠くから映見の背中へと視線を注ぐ。
俯くさう。

映見 それで、実の母親は、妹と東京へ行つた。
さら 妹つて、誰の?
映見 私の。
さら え、お母さん妹いるの?
映見 二つ違いの。わかつてから一回も会つてないけど。
さら ちょっとと待つて。じゃあお母さんは、その酒飲みと一緒に暮らしたの?
映見 しばらくはね。父はすぐに再婚して、子どもがてきて、私は父の実家に引っ越したの。
さら え、なんで?
映見 なんでつて?
さら 追い、出された?
さら んー、そういうわけじゃないけど、実家は近かつたし、自然にそうなつたのかな。
さら かなつて、そんな重大なこと。
映見 もう四十年も前だから。
さら ……。
映見 実家にはおばあちゃん、千恵子さんっていうんだけど、
さら 千恵子さん。
映見 うん。千恵子さんの、旦那さんの俊二さん。父の兄夫婦と、その息子兄弟もいた。だから賑やかだつたよ。
さら なんかややこしい。

映見 そうだね。
さら お母さんは、実の両親とは暮らさずに、父方のおじいちゃんおばあちゃんに、育てられた?
映見 そうそう。
さら 複雑。
映見 映見さんは会ったでしょ?
さら 德ちゃん?
映見 一緒に暮らしてた従兄。お墓参りのときと、ほら、もう四年前か、このうちのおじいちゃんの葬儀のときにも会ったじゃない。
男V、さらへと視線を変える。
さら …。
映見 大丈夫?
さら え?
映見 ばーっとしてる。
さら いや、なんか最近忘れっぽくて。
映見 何か相談したいことがあつたら言ってね。
さら …。東京に引っ越した一人とは? 電話とか、手紙とか。
映見 なかつた。
さら 会つてみたいとか思う?
映見 今さら会つてもね。
さら …。
映見 気になる?
さら まあ、なんか、びっくりした。
映見 詳しくは言つたことなかつたかもね。
さら 言う必要なかつた?
映見 言えるほど、家族とは思えなかつたんだろうね。もう、別の家人。
さら どうして東京にいるつて知つてるの?
映見 むかし千恵子さんが言つてた。
さら 実家には、今も行つたりしてるの?
映見 ううん。行つてない。
さら 誰が住んでるの?
映見 今は德ちゃん。
さら …。
映見 別に隠してたわけじゃないんだよ?
さら それは分かるけど。
映見 ……「めんね。
さら 別に、謝んなくても……。

映見 知り合いの紹介でこの家に嫁いで、……」のうちのお父さんとお母さんは厳しかった。怒鳴られだし、叩かれもした、イヤミっぽくて意地悪もたくさんされた。あなたと杏奈と連れて家を出たこともあった。でも一人がいてくれたから、がんばれた。
さう ……。

男V、去っていく。

映見（微笑み）今が大事。あなたたちが家族。
さら ……。
映見 朝ごはん、食べた?
さら（首を横に振る）
映見 食べる?
さら いらない。
映見 そう。

映見、伸びをする。

映見 ためになつた?
さら うん。
映見（あぐびしながら）じゃあよかつた。
さら 寝て。
映見 うん。おやすみ。

映見、去る。さら、その背中を見て、

映見 おやすみ。

さら、光が集まる。

さら 胸が苦しくなつた。喉に何かが詰まつたような、お腹に石が溜まつたような（お腹に手をあてる）……この感覚……。私は母を裏切つている。でも、苦しめたくない。

5 相談

めい もーほんとお腹ペコリース。
昼休み。さらがお弁当をつついている。
そこへめい。

さら ねえなんかあったの？

めい なんで？

さら スカートめっちゃ短いよ。

めい そう？

さら そうだよ。

めい 気分いいじゃんこのほうが。うちの制服ダサいしね。

さら 嘩り方もなんか変。

めい つてかさ、さらってなんでいつもズボンなの？ スカートも持ってるって言つてなかつた？

さら このほうが楽だし、落ち着くから。

めい 冬寒いしねー。

間。

さら 話変わるけど、

めい ん？

さら うちのさ、母方のおじいちゃんとおばあちゃんに、一回も会つたことないんだよね、私。めい どして？

さら なんか複雑なんだよね。おじいちゃんはもう「亡くなつてて、おばあちゃんは東京にいるらしいんだけど、なんか小さいときに離婚したらしくて、音信不通？ みたいな東京。

めい おばあちゃんの実家が東京なのかな。

めい だつたらいいね。

さら ん？

めい 東京に親戚いたら良くな？ 遊びに行きやすいじゃん。

さら あー、そう考えるとまあ。

めい 会いに行けば？

さら いや、場所わからんないんだよ。

めい 知つてる人いないの？

さら いないこともないと思うけど。「突然なに？」って感じじゃない？

めい そう？ 気になるなら仕方ないじゃん。

さら 気になるつていうか、どうして離れてから一回も会わなかつたんだろうって。電話くらいできるだろうに。

めい 事情があつたにしても、それを知りたいよね。

さら うん……、会えるかな。

めい (立ち上がり) 協力する！

さら えつ、

音楽。

めい、さらを立たせる。ノリノリでさらの背中を押して進むめい。舞台をぐるりと回る。

さら
めいに背中をズンズン押され、私たちは母の実家を探し始めましたあーわわわっ！（つまずきそうになる）。

めい、一人で走り去る。照明、さらに集まる。

さら
手がかりは母の従兄の徳ちゃんだけ。お姉ちゃんは母の育った家を知りませんでした。夜、私は母の携帯を盗み見て、徳ちゃんの電話番号をゲットしました。

光の中にめいが入ってきて、

めい 電話できた？

さら うん、めっちゃ緊張したー。

めい がんばったね。

さら 会って話すことになった。

めい え、なんて話したの？

さら 学校で家系図を書く課題が出たって。

めい あー、直接おばあちゃんの居場所を聞いたわけじゃないんだ。

さら 聞きづらくって……。

めい でも一步前進だね。

さら 今度の日曜十四時、喫茶店で。

照明CO。

6 喫茶店

カラソコロン（S.E.）。溶明。

めい パフェ頼むからね。

さら はい。

めい でつかいやつ！

さら なんでもいいです。

さらとめい、椅子に座る。

めい 徳ちゃんさんの顔わかる？

さら 憶えてない。

めい 会つたことあるんだよね?

さら 四年前。

めい 四年かー。

徳ちゃん入る。カラソコロン。

徳 あ、待ち合わせです。

辺りを見回し、2人を見つけてやつてくる。客も入り、あいている席につく (SEなし)。

徳 お待たせ。

徳 あ、こ、こんにちは。

徳 久しぶりだね。遠目じやちょっと分かんなかったよ。

徳 ……。

徳 友だちの水島です、初めましてー。

徳 こんにちは。

徳 徳ちゃんさんですよね?

徳 あはは、映見ちゃん、家でもそう呼んでるんだな。

徳 あ、はい、あの、はい。

徳 さら、今日ちょっと具合悪いみたいで。

徳 大丈夫?

徳 さら、あ、全然、気にしないでください、あの、今日は母のこと、いろいろ教えてください。

徳ちゃん、アルバムを出す。

徳 映見ちゃんとはよく遊んだよ、うちの兄弟あわせて四人で (集合写真を見せる)。

徳 さら これ、お母さんですか?

徳 さら うん。十歳くらいかな。

徳 めい あ、似てるー。

徳 さら 私?

徳 さら 鼻とか目元。

徳 さら (鼻をかくす)

徳 さら これは鬼おにっこかな、庭で。

徳 さら お母さん、

徳 さら めっちゃ速そう、

徳 さら 残像が、

徳 よく外で遊んだよ。川に入つたり公園で缶蹴り、ひとんちの石垣のぼつたり、上級生の男子

に交ざつて野球やつたり。映見ちゃんは運動が得意だつたな。

意外です。

でも口数は少なかつたかな。だから喧嘩もしたことなかつたよ。家族のことで傷ついたぶん、みんなに優しかつたのかもな。

母は寂しがつてましたか？

ときどき、みんなが寝たつる、庭に出て泣いてたよ。今でも憶えてる。月の明かりに照らされて、じつと、立つたまま、どこか遠くを見つめてた。何を考えていたのか。映見ちゃんは誰のことも責めてなかつた。俺たち兄弟はラッキーだつたよ、彼女と暮らせて。

どうしてですか？

いろいろ教わつた。逞しく生きる姿にね。励まされたよ。

（微笑み、さらりと肩を寄せる）

さら 母の実母は、今どこに住んでるか分かりますか？ 東京にいるとは聞いたんですけど。

徳 誰から？

母です。

徳 やつぱりそうか。

徳 ？

徳 見てもらいたいものがあるんだ。

徳ちゃん、鞄から手紙の束を出してさらへ差し出す。

徳 映見ちゃんのお母さんが、うちのばあちゃんに出してた手紙。
さら 千恵子さんにですか？

徳 うんうん。遺品整理のときに見つけたんだ。東京に引っ越したあとも、しづらへは届いてたみたいだよ。

客、去つていく。

さら、紐を解いて手紙を見る。はがきもあれば封筒もある。

徳 大半は国内からだけど、一通だけ、アイスランドから来てる。

さら・めい アイスランド？

徳ちゃん、特定の封筒を手に取り、

中の手紙を広げて示す（写真も入つてゐるが、では出さない）。

徳 こゝ、読んでみて。

さら …… “故郷”？

めい え？

さら “娘の結婚を機に、故郷へ帰る”ことになりました。日本で暮らしたこと、すべてのこと感謝

します。お世話になりました。ビルタより”

間。

さら ビルタ?

映見ちゃんそんなにヨーロピアンかなあ?

ないです、全然ないです。

めい どういうこと? さらのおばあちゃんはアイスランドの人?

さら (徳ちゃんを見る)

いや、わからない。

さら この、ビルタさんには会ったことないんですか?

徳 あるとは思うんだけど……、でも外国人なら憶えてそうだよな。

さら よそから移り住んだのかもしれないし、

めい ってか、さらのお母さんも、自分の母親がどこの人か知らないの?

さら (徳ちゃんを見る)

徳 知つてたら、さらちゃんに言うだろうし、

さら それはわかんないです。知つてて言わないだけかも。

めい そんなことある?

さら だつて妹がいることも言わなかつたんだよ?

徳 まあ、昔のことだし。今さら、

めい いや、超重要じやないですか? 自分の中に、血が流れてるんですよ。自分の命にDNAって、

超重要事項じやないですか? 知る権利、あると思いません?

徳 ま、まあ、確かに。

さら この手紙、いただくことはできませんか?

徳 全部もつていってほしい。見つけたとき、ほんとは映見ちゃんに渡そうと思つたんだけど、どれも千恵子さんに宛てたものだつたし、千恵子さんが映見ちゃんに渡さなかつたものを、俺が渡すのは違うだろうと思って。

さら でも、いいんですか?

徳 もし映見ちゃんのほうから訊いてきたら、渡そうとは思つてた。まさかさらちゃんが訊いてくるとは思わなかつたけど、さらちゃんが知りたい家族の歴史を、俺が隠すのはもつと違う。

さら この中に、お母さん宛の手紙はないんですか?

徳 少なくとも、宛先に映見ちゃんの名前はなかつた。

めい なんでだろうね。

さら ……の際、おばあちゃんがどこの誰かなんてどうでもいい。

さら、手紙をたたみつつ、

さら 関わりがないと、他人になつちゃうのですかね。

徳 ほんとは我慢してたのかもしないよ。微妙な状況だったからね。

さら、手紙を戻そうとしたとき、封筒の中の写真に気付いて取り出す。

徳 ああ、その写真に写ってるのが、
さら 妹さんですか？

徳 うん、分かる？
さら (頷く) 似てます、お母さんと。

めい (写真を覗きこむ)

徳 手紙に書いてあるけど、旦那さんがその農場の経営者なんだって。
さら (写真をめいに渡し、手紙を冒頭から黙読)

めい ここ、アイスランドですか？

徳 そうみたいだね。

めい 素敵な笑顔。

さら つまり、おばあちゃんは、結婚する娘と一緒に移住した。それがもう、二十年前のこと……。
めい 遠いね。

ゆっこりと転換。

さら その日から、母と顔を合わせるたびに、

映見 入る。じつと映見の顔を見つめるさら。

映見 ん？ 顔に何かついてる？ え、もしかして鼻毛？ あ、鼻毛だ。

映見、駆け去る。

さら 見つめてしまします。頭の中で、想像が膨らんでしまう。母が家族へ抱く思いや、私たちを形作る遺伝子のこと。そして、故郷。わたしの辿るべき、ルーツ。

アイスランド国歌が流れる。

7 教室・放課後

携帯電話を見てぼーっとしているさらのもとに、めいがやってくる。

めい きた？
さら きてない。

めい 忙しいのかな。
さら 一週間前から更新されてないし。
めい あんまり使わないんじゃない? SNS。
さら でも写真とか結構のってる。
めい どれ。

さら (画面を見せる)。
めい (見る) へえー。あ、オーロラじゃん、す、うつ。
さら 個人のアカウントも探したんだけど、
めい これ農場の名前あつてるの?
さら あつてるよ(写真を取り出し、めいに渡す)。
めい ほんとだ。看板の名前と一緒に。
さら やつぱり、もう関わりたくないのかな。
めい もうさ、行っちゃおうよ。
さら だからお金ないし、行つてもどうやって移動するの。
めい バスかタクシー。
さら お金がない。
めい バイトは?
さら 一応探したけどさあ、
めい 私もう決めたよ?
さら えつ、
めい 善は急げよ。
さら 本気で行くつもり?
めい あたりまえじゃん。
さら なんで?
めい 行きたいから。
さら 無理しないでよ。
めい してないし。
さら なんのバイトするの?
めい 稼げるやつ。
さら なに?
めい 飛行機代って高いよねー。
さら ねえなんのバイト?
めい いま予約すれば安いけどお金が足りない。お金が溜まるには値上がりしてて、結局買え
ない。不条理ー。
さら めい、今日メイクしてるよね。
めい だから?
さら やつぱり最近変だよ。
めい 普通にJKやってるだけ。

彼氏でもできた？

何それウケる。

…。

とにかくお金はなんとかするから、夏休みに行こう。

ねえ、

チャンスは今しかないんでしょう？

パスポートはまた更新すればいいよ。

また言い訳。

めい 言い訳？

めい もらった手紙、なんでお母さんに渡さないの？

めい ……。

めい 渡して素直に言えばいいじゃん。おばあちゃんに会ってみたいって。

めい 言えないよ。

めい なんで。

めい なんでって、

めい 逃げてるだけじゃん。

めい ……（ズボンを握り締める）。

めい 自分の気持ち、大事にしてよ。

めい わかんない。

めい どうわからんない？

めい おばあちゃんに文句言いたいけど、お母さんがおばあちゃんのことどう思ってるのか、ホントのところが分かんないし、私が会いたいって言うことでお母さんが嫌な思いをするかもしれない。自分を捨てた人に、自分の娘が会いたいって言うんだよ？ 意味わからんない？ 私も私で孫として、その人に会ってみたいって思っちゃってる。向こうは向こうで会ったこともない高校生にいろいろ言われても、「は？」お前誰」みたいな……。結局ただの自己満。みんなに嫌な思いをさせるだけ。

めい、しゃがみ、さらの顔を見る。

めい うまく言えないけど、さらはなんにも我慢しなくていいんだよ。自分の気持ちも、お母さん の気持ちも、ぜんぶ、全部ひつくるめて叶えてほしい。（涙をこらえる）

めい もう……どつか行こうよ。ぜんぶ忘れてバーッとしたい。じゃないとほんとに、ほんとに頭がおかしくなっちゃう。

めい、俯く。

めい、めいの頬から顎を左右の手で包むようにして、顔を上げさせる。

さら もう、やめよ。考えるの。
めい ……。
さら 行こう。

音楽。

めい（笑み、）うん。

携帯電話の着信音。音のほうを見やる一人。

暗。

8 農場

ヨンが照らされる。携帯電話を操作している。

ヨン 日本語？ ……（血相を変えて）かあさん、かあさーん！

明。

洗濯かごを持って入る由梨。

ヨン かあさん、これ見て。

由梨 帰ったならお父さんのほう手伝いなさい。

ヨン 大事なことだよ。

由梨 女性がアメリカの大統領になつた？

ヨン もう、読むからね。『はじめまして。』……。

由梨 なに。

ヨン 読めない、漢字が。

由梨 漢字？

ヨン（携帯電話を渡す）。

由梨 “はじめまして。突然すみません。”

ヨン ああ、「トツゼン」ね。

由梨 誰から？

ヨン 読んで。

由梨 “私は舟喜さらと申します。”

ヨン やつぱりフナキ！ ばあちゃんの日本での名前！

由梨 “そちらの農場にビルタさんはいらっしゃいますか？ 名前しか分からぬのですが、私の祖母にあたります。”

ヨン ね！ びっくりでしょ。きっとこのサラつて子は、母さんの姉さんの子ども！ 僕の、

あれだよ、日本語でなんだっけ。

由梨 ヨン、これいつ届いたの。

ヨン 一週間前。さつき気づいた。

由梨 “私は今まで母方の家族について何も知りませんでした。最近あるきっかけがあり、私は（以下黙読）”

ヨン いやあ僕もね、日本に行ってみたいと思ってたんだ。ばあちゃんが愛した日本の文化、肌で触れてみたいで“”やるよ。いつかは留学したり、ばあちゃんみたいに住んでみたいな。

由梨 やめときなさい（携帯電話を返す）。

ヨン えつ？ え、どうするの。

由梨 “本気で来たいなら来なさい。”、そう返信しておけばいいわ。

ヨン いいの？

由梨 驄目な理由がある？

ヨン いや、僕はないけど。「やめときなさい」って言つたのは何？

由梨 留学先はほかにもあるでしょう？

ヨン 日本がいいんだけど。

由梨 この話はあと。むこうを手伝つて。

ヨン はあい。

ヨン、携帯電話を操作しながら駆けていく。遠くを見つめる由梨。

9 ヨン

さら、入る。

さら アイスランドへの旅費を稼ぐため、わたしはアルバイトを始めました。食品の仕分けや梱包、チラシを折つたり、週末みつちり朝から晩まで。勉強も疎かにはできません。生活は一気に慌ただしくなりました。それでもいろいろ計算すると、夏休みの間に行くには、どうしてもあと五万円ほど足りません。めいは、いまだになんのバイトをしているのか、教えてくれません。

メッセージの着信音。さら、携帯電話を見る。ヨンが入る。

ヨン “Hi! 仕事は順調？”

さら ……。（入力）。

ヨン “よかつた。くわしい予定が決まつたら教えてください。母と空港まで迎えに行きます。”

さら （入力）。

ヨン “いいんだ。僕も母さんの家族に会いたいからね。日本についても、もっと知りたいんだ。”

さら （入力）。

ヨン “母さんとばあちゃんは日本語で話していたからね。僕も話せるけど、書けないし読むのも苦

手なんだ。父さんは「英語で話してくれる」って毎日やっていたよ。」

（入力）
ヨン “ああ。仲がいいよ。でも、さあかやべの Alzheimer's 認知症がひどくなつて、先田 Care home に入つたんだ。”

（入力）
アルツハイマー……。 （入力）

からだは元気だよ。でも、面会さできないかもしね。……。

ヨン あの、もしよかつたら、Text じゃなくて声で話せないかな?。

あの男、入る。からだ、あの男のほうを見て、すぐに田を逸ひす。

からだ、携帯電話をしまし、去る。ヨン、返信がない」とこ首をかしげ、去る。あの男も去る。

10 舟喜家リビング・二十三時

杏奈、入る。遅れてからだ、入る。

からだ（溜息）

杏奈 どしたの。

からだ わつ！

杏奈 ！

からだ びっくりしたー。

杏奈 こつちもびっくりしたわよ。

からだ（物憂げに座る）

杏奈 忙しいの？

からだ え？

杏奈 バイト始めたんでしょ？

からだ うん。杏奈 まあ、少しほ元気になつたみたいね。

からだ どういいうと..

杏奈 何年か前から、あんたずっと暗がつた。

からだ ……お姉ちゃんはさ、お母さんの家族に会へねんつたら、もうあらへ。杏奈 どうつて、別に今から興味ないつていうか、

からだ アイスランドにいるんだよ。

杏奈 なにが？

からだ おばあちゃん。ビルタつて名前。

杏奈 え？

からだ お母さんには妹がいるんだよ、由梨つていい。

杏奈 ……。

さら こないだ由梨さんの息子、つまり私たちのイトコから連絡がきた。

杏奈 なんて？

さら “本気で来たいなら来なさい” つて。

杏奈 アイスランドに？

さら うん。

杏奈 それは、なに、え？（笑う）マジで？ アンタ何やつてんの？（笑いが止まらない）
さら ちょっと、怖いんだけど（姉が）。
杏奈 だって、アンタいつからそんなアクティブになつたの、びっくりするわ。あー、面白い。
さら お姉ちゃんのツボつてよく分かんない。

杏奈 それで、なに、どうするの。

さら 行くよ。

杏奈 お母さんと？

杏奈 友だちと。

杏奈 それお父さん許したの？

杏奈 黙つていぐ。

杏奈 バレたら殺されるんじゃない？

さら 一人じゃないし、向こうに着きやえすれば、迎えに来てもらえるし、泊めてくれる。

杏奈 ホントにお母さんの家族なの？

さら （携帯電話で撮つておいた写真の画像を見せる）。

杏奈 なに。（見る）これ、お母さんの妹？

さら うん。

杏奈 似てるわ。

さら 二十年後のその人に会いに行く。

杏奈 マジで？

杏奈 マジで。

杏奈 （ふつと笑う）。

杏奈 面白い？

杏奈 （首を横に振る）

さら ……？

杏奈 ビョークつてわかる？

さら ビョーク？

杏奈 アイスランド出身の歌手。

さら 知らない。

杏奈 ……（携帯電話を返す）。

さら 関係あるの？

杏奈 いや、その人がてる映画を、思い出しだけ（やらに背を向ける）。

さら どしたの。

杏奈 一服してくる。

杏奈、去ろうとしたが立ち止まり、振り向かず、

杏奈 無謀。

さら え?

杏奈 でも、なんか頼もしくなった。

さら ……。

杏奈 (振り返り、さらを見て、) 安心した。

微笑んで去ろうとした杏奈に、

さら お姉ちゃん、

杏奈 ん?

さら お金貸して。

杏奈 (噴き出す) アンタね、いま私なんて言つた?

さら え、「安心した」つて。

杏奈 それがいきなり「金貸して」つてもう、しつちやかめつちやかよ感情が。

さら だつてチケット高くて、バイトしてもあと五万足りない。

杏奈 (溜息)

さら 一ヶ月以内に返すから、絶対。お土産買つてくる余裕はないけど、向こうのこと、たくさん話すから。レポート書くよ、作文用紙何枚でも書く。お姉ちゃんの知りたいこと、メールしてくれば全部訊いてくるから。あと、

杏奈 いいわよ。

さら ……。

杏奈 その代わり、ちゃんと帰つてくるのよ。

さら (杏奈の目を見て、) はい。

杏奈 向こうにいるあいだはどこにいる設定にすんの。

さら え?

杏奈 黙つていくんでしょ? アリバイが必要でしょよ。

さら (あつ)

杏奈 マジかよ。

さら どうしよう。

杏奈 聞かなきやよかつた。

さら 友だちの家つて言ふ。

杏奈 絶対バレるよ。

さら ええー。

杏奈 じゃあいいよ、私んちつてことにな。

さら (えつ)

杏奈 もう乗り掛かった舟。いや飛行機か。
さら いいの？

杏奈 (短く息を吐き、) 私のぶんまで行つていい。

音楽。

さら 行つてきます。

杏奈 去る。

11 通話

あの男、入る。さら、携帯電話を操作し始める。そばに立つて画面をのぞきこむあの男。ヨンが入り、すぐに着信音があつて自分の携帯電話を見る。さらから掛かってきた電話を受ける。さらは携帯電話を両手で持つて話す（音声をスピーカーに出しているいで）。

ヨン はい！
さら 聞こえますか？
ヨン はい、聞こえます！

さら あの、そちらに行く日を決めました。

ヨン あつ、メモ、メモ取ります。待つてくださいね。

さら はい。

ヨン はい、どうぞ。
さら 八月二十四日の、十九時十五分、ケプラヴィーク国際空港に着きます。

ヨン OK. いつまでこっちにいますか？

さら そちらのご都合に合わせたいと思います。あまり長くお世話になるのも、申し訳ないので。ヨン 母さんは「好きにしたらいい」って言つてたよ。

さら あの、由梨さんは私のこと、どう思つてるんでしようか。

ヨン よくわからない。でもはつきり言ふ人だから、いいつて言ふならいいんだと思う。

さら ……じゃあ、二十七日の午前中に帰ります。

ヨン えつ、もつといたらいいのに。

さら 学校も始まるので。

ヨン そつか。忙しいね。

間。

あの男は徐々にさらから離れていく。

二人 あの、

ヨン あ、「めんなさい。
ヤハラ いえ、あの、すみません。

ヨン えっと、こっちにいるあいだ、どこか行きたい所ありますか？ よかつたら案内します。
ヤハラ 間欠泉、とかですか？

ヨン そうそう、カンケツセンとか。近い所で一時間ちょっととかな。
ヤハラ 一緒に行く友だち、めいっていうんですけど

ヨン メイ？
ヤハラ はい。

ヨン サラ&メイだね。
ヤハラ (笑み) はい。

ヨン いい名前だ。

ヤハラ めいは、ブルーラグーンに行きたいって書ってました。

ヨン ブルーラグーンは空港に近いから、遅るときに寄れたらいいね。入るなら水着を持つてきてね。

ヤハラ 伝えておきます。

ヨン 僕らはたくさん水とマグマに感謝してるんだ。生活を支えてくれているからね。
ヤハラ 温泉ですか？

ヨン 温泉も素晴らしいけど、発電も。火力にも原子力に頼らなくて済んでいるんだ。

ヤハラ 火力発電所も、原発もないんですか？

ヨン ない。温泉だけだよ。Sulfur のおかげで肌も綺麗だしね。
ヤハラ すげーですね。

ヨン でも日本はこっちより熱の Resource があるって聞いたよ？
ヤハラ え、知らないです。

ヨン コストや場所の問題があるのかもね。

ヤハラ 環境とか、安全のことを考えると……、

ヨン そう。日本は痛感してるはず。自然との共存についてね。

映見、入る。

映見 ヤハラ、「はんよー。

ヤハラ あ、すみません、夕飯の時間です。

ヨン じゃあ予定のと、母さんに伝えます。

ヤハラ お願ひします。

ヨン おやすみです。

ヤハラ (笑み) おやすみです。

ヨン、去る。

まだ見ぬイトコ、ヨンは私と同い年。ときどき現地のことを教えてくれたり、日本について訊いてきます。歴史やアニメ、政治、社会について。私とはまるで違う。彼と話していくうちに、私の視界がひらけていきます。

あの男、客席に背を向けて床にあぐらをかき、目を瞑る。

さう 日が伸びて、蝉が鳴き、あつという間に七月下旬。無事に航空券を買うことができました。あとはお姉ちゃんに返すお金を稼いで、旅行の準備を始めます。めいと、一緒に。

ヨン、入る。

ヨン 日本の軍事力は世界第五位だつて。

さら 自衛隊って強いんだ?

ヨン そうなのかねえ。

さら そつちは?

ヨン 警察とか、沿岸警備隊はもちろんあるけど、イスランドには軍隊がありません。え、なくとも大丈夫なの?

ヨン NATO に入ってる国の、空軍が、交代で警備してるんだ。知らなかつた。

ヨン 核兵器にも断固反対さ。

さら 日本は自衛隊を遠くに派遣して、危険があるのに拡大解釈で正当化して。他国との結びつきが強いよね。

ヨン 国民よりも大事にしてる。利益優先、嘘ばっかり。その場しのぎのやつつけアピール。

ヨン どうしたの。すごく熱いね。

さら 最近イライラする。

ヨン 疲れてるんじゃない?

さら (首を横に振る) テレビとかネット、できるだけ避けてたんだけど、お母さんのこと知つてから、いろいろ調べるようになつた。そしたらなんか、見たくないものまで見ちゃうから、爆発しそうになる。頭が。

ヨン なんで見ないようにしてたの?

あの男、立ち上がる。遠くからさうじつと見つめ、動かない。

さら …。

ヨン 美味しいもの食べて、映画でも観てたくさん寝よう。

さら (短く息を吐く)

ヨン …。

さら アイスランドには苗字がないんだよね?

ヨン ミョウジ?

さいら 私だったら舟喜さら。フナキっていうのが苗字。

ヨン ああ、うん。父親の名前に、息子もしくは娘っていう意味の言葉がつくんだ。例えばヨハン (Johann) の息子 (son) ならヨハンソン (Johann s son) になるね。

さいら 母親の名前を使ってもいいんでしょ?

ヨン そうだね。結婚しても変わらないし、家族でラストネームが違うことは不思議じゃない。さいら 同性婚も認められてるんだよね?

ヨン うん。十年くらい前に。

さいら マイノリティーの人たちにも優しいんでしょ?

ヨン 当然の権利としてね。偏見はないし、オープンだよ。法的にもほぼ平等だしね。

さいら すういよ。ほんと、同じ島国なのにぜんぜん違う。

ヨン 泣いてる?

さいら 泣いてない。

ヨン ……実は母さんが、フェミニズム運動とか、LGBTQIA の支援に熱心で、団体での活動に参加してるんだ。だからもし、何か相談したい」とがあつたら、今度話してみたらどうかな。

さいら ……大丈夫。

ヨン ……そう。

音楽。

さいら もう遅いから寝ます。

ヨン ……。

さいら おやすみです。

ヨン おやすみです。

さいら 去る。(着替え)

ヨン、トロールの存在に気付き、視線を向ける。二人、目を合わせ、動かない。

突然、硬く不気味なニヤけた顔になるトロール。険しい表情のヨン。

トロール、去っていく。

ヨン 遠く、離れた日本の家族に会える。八月、大陸を越え、彼女たちがやってくる。

ヨン、去る。

リュックを背負い、キャリーケースを引いたさいらとめいがやってくる。
長袖・ゆつたりめのパンツルック。

さら 七時半に出発して、羽田で乗り換える。

めい からの、フランクフルトで乗り換えて到着。

さら 移動時間は、

めい 二十一時間ちょっと。

さら 時差はマイナス九時間。

めい 氷と火の国。どんな空気かな。

さら どんなだろうね。

めいの携帯電話に着信。

めい ……。

さら 誰？

めい 親。

めい、電話に出る。

めい ……別に、お父さんに関係ないでしょ。……えつ？ は？ は？ キヤンセルってなに？
は？ マジで言ってんの？ いや、え、は？ キヤンセルって意味わかんないんだけど。どう
いうこと？ え、なに勝手やつてんの？ ねえ。ねえ！ お前に関係ないだろうが！ 私が自
分の金で何しようが勝手だろうが！……は？ いや意味わかんないから。ねえ、ねえ！ ……
ふざけんなよ！

電話を切るめい。怒りに満ちている。

さら どしたの……。

めい ……キャンセルしたつて。

さら 飛行機？

めい (頷く) なんでバレたんだろう……。

さら ……とりあえず、私もキャンセルしてくる。

めい さらは行くんだよ。

さら え。無理だよ。

めい 無理じゃない。

さら またいつか……、

めい いつか？

さら いつか、

めい いつか、

さら いつかって、いつだろ。……ずっとこんな感じでいるのかな……？

めい さらばどこへ行きたいの？

さら。

めい ずっとここにいたい？

さら いたくない。

めい じゃあ行つて。飛んでいってよ。行きたいところへ行つたらいいよ。

さら めいは……？

めい 帰りを待つてる。

さら、深く俯いたあと、勢いよく顔をあげ、

さら パーツとしてくる。めいのぶんまで、パートとしてくる。

不安を隠すように笑む二人。

飛行機のエンジン音が聞こえてくる。

めい 気を付けて。

さら うん。

めい 早く行つて。

さら なんで？

めい 親ぐるから、今。

さら。

めい 大丈夫。

さら いつてくる。

めい いつてらっしゃい。

さら、去る。めい、見送り、去る。

溶暗。

アナウンス ご案内申し上げます。当機はまもなく離陸体制に入ります。ベルトを締め、今しばらく席にてお待ちください。

エンジン音が高鳴り、離陸。

13 到着

さら が照らし出される。

さら 地元をたち、羽田で乗り換え、不安だつたフランクフルトでの乗り換えも、なんとかうまくい

きました。そこから飛行機は、アイスランド、ケプラヴィーク国際空港へと向かいます。

さら、去る。飛行機、着陸時の音が響く。
溶明。

舞台にはヨンがいる。手には『さら and めい』と書かれたスケッチブック。到着出口のほうを見やり、そわそわとしている。

さら、入る（上着を羽織っている）。辺りを見る。

さら（ヨンを見る）。

ヨン（さらを見る）

さら（会釈）

ヨン（嬉々として）ようこそー！

スケッチブックを脇に挟み、盛大な拍手をして迎えるヨン。

ヨン お疲れ様です！ ヨンです。

さら はじめまして、さらです。

ヨン 母さんは車で待つてます（キャリーバッグをかわりに持つ）。

さら あ、ありがとうございます。

ヨン そんな他人事じゃなくていいよー？ イトコなんだから。

さら 他人、行儀？

ヨン ギョウギ？

さら 他人行儀。

ヨン タニンギョウギ、他人行儀だなー！（笑う）

さら すみません。

ヨン お友だちは残念だったね。

さら はい……。

ヨン 今度は一緒に来れたらいいね。

二人、歩きはじめる。ぐるりと歩く。

さら 外、ほんとに明るいですね。

ヨン これでも暗くなつたほうだよ。冬に向けてどんどん明るい時間がなくなつていくんだ。

さら 極端ですね。

ヨン キョクタン？

さら 極端。

ヨン そう、キョクタンなんだ。

さら わかつてます？

ヨン わかるよ? キョクタンだろ?

さいら (微笑む)。

由梨、入る。

14 由梨

ヨン お待たせ。

さいら はじめまして。舟喜さいらです。今回はお世話になります。よろしくお願ひします (礼)。

由梨 (ヨンに) キャリーバッグ後ろに。

ヨン はーい。(ヨン、トランクにキャリーバッグをつむ)。

由梨、運転席 (右ハンドル) に乗り込む。

ヨン どうぞ (助手席のドアを開ける)。

さいら ありがとうございます。

さいら、乗りこむ。ヨンは後部座席に乗りこむ。由梨、車を出す。
自動車の走行音だけが響く。気まずい間。

ヨン 音楽ね、音楽。何がいいかな。

ヨン、携帯電話を操作し、Bluetoothで音楽をかける。

ノリノリのヨン。しばらくして、由梨、タッチパネルで音楽を切る。

由梨 母とは面会できない。

さいら・ヨン (由梨を見る)

由梨 昨日も疲れたらしいから。やめておきなさい。

ヨン いや、ちょっと待つてよ、一旦見るだけでも、

由梨 動物園じゃないのよ。

ヨン そんなこと言つてないだろ?

由梨 私だったら見られたくないね。さつき言わたことさえ憶えてなくて、頭にあるのは不安と混乱。焦燥感でじつとしてもいられない、パニックになる。仮にも自分の孫に、初対面でそんな醜態さいらしたい? そんなわけないよね。

ヨン ……。

さいら わかりました。

ヨン いいの?

さいら お一人に会えただけでも、私にとつては、大きなことです。……だから、由梨さんのことを、

お聞きしたいです。

由梨 どんなこと?

さら ……私の母と、離れ離れになつてから、今まで、どう思つて過(は)ぎれていたのか、知りたいです。

間。

由梨 姉の存在は母から聞いてた。写真もあつた。でも記憶にはないし、会う理由もない。普通の一人っ子として育つた。大学でこつちに留学したとき、今の夫に出会つた。卒業してすぐに移り住んで、結婚した。母は喜んだ。向こうは、日本は息苦しかつたから。

さら 今まで一回も、会いたいと思つたことはないんですか?

由梨 ない。これからも、会うことはない。

さら たつた一人のきょうだいなのに、ですか?

由梨 血縁だけじゃ、なんの意味も成さない。大切なのは実質があること。

さら ……。

ヨン (小声で) 頑固なんだ。

由梨 あなたのお母さんは? なんて言つてた?

さら 「今さら会つてもね」 つて。

由梨 同感よ。

沈黙の間。

ヨン、再び音楽をかける。さら、俯き、やがて目を瞑る。

ヨン ついたよ。

停車。降りる三人。ぐるりと歩く。

家に入るまでのあいだに、羊の声が聞こえてきた。立ち止まるさら。

ヨン 羊だよ。見にいくかい?

さら (頷く) はい。

由梨 ヨン。

ヨン ん?

由梨 (手を差し出し、キャリーバッグとスケッチブックを預かる)。

ヨン 行こう。

ぐるりと歩いて羊の舎に向かい、(客席を) 眺める。

その様子を遠くから見ている由梨。羊の声。

ヨン 仔羊もいるよ。
由梨 かわいい。

微笑むさう。去る由梨。

さらとヨン、ゆっくりと話しながら歩いていく。溶暗。

15 夕食

暗い中、ノックの音。

ヨン サラさん？ できましたよ。

溶明。ダイニングルーム。

椅子を引くヨン。一礼して座るさら。

あの、お父さんは。

ヨン 出掛けてる。植林で忙しいんだ。

さら 植林？

ヨン 両親そろって活動家。大変だよ。

由梨 ヨン、運んで。

ヨン はーい。

由梨 あなたのお母さんは？ 何をしている人？
さら 看護師です。

ヨン へえ、素晴らしい。うちの母さんは教授を目指してたんだよ。
由梨 教育社会学者よ。教授になりたかったわけじゃない。

ヨン でも地位も必要だつて言ってるじやん。

由梨 重要なのは信頼よ。保証となるものが要るという話。公の場で政治や社会に改革を訴える力のひとつになるわ。

さら 改革、

由梨 不遇な扱いや搾取を看過する政治、社会そのものに根付いた「人権意識」の欠如についてよ。

ヨン 飲みすぎなんじやない？

由梨 まだワイン一本よ（あぐび）。

ヨン あぐびしてるじやん。

ヨン、さらの前に料理を運ぶ。表情が曇るさう。

あの男、入る。

ヨン どうかした？

さう これ……、なんの肉ですか？

ヨン 羊だよ。子どもの。赤ワインで煮込んだあるんだ。柔らかくておいしいよ。

仔羊のワイン煮込みを前に、田を見開くさう。

ヨンとあの男、ニヤリと笑い、ヨダレを手の甲で拭う。

突然、さう、吐き氣をもよおす。

ヨン えつ、

口に手をあて、駆け出すさう、去る。あの男も去る。
あとを追おうとするヨン、

由梨 待つて（さうが去つていったほうを見つめる）。

ヨン（立ち止まるが、由梨が何も言葉を継がないため、構わず外へと駆け出る。去る）

由梨、反対側へ去る。

16 屋外

家屋の裏手。薄明り。

駆け込んで、嘔吐するさう。しかし胃にあまり食物が入っていないため吐瀉物は少量。
うずくまるさう。背後からヨン。

ヨン 大丈夫？

さう、駆け寄ったヨンにびっくりと反応し、ヨンの手がさうの背中に触れたとき、小さく悲鳴をあげる。身を縮こませ、ヨンを避ける。

あの男がやつてくる。田は見開かれ、鼻はふくらみ、細かく息を切らしている。異様な表情で、ゆっくりとさうへと向かっていく。

ヨン ごめん、聞けばよかつた。肉は食べないようにしてるのでかい？
さう ……。

ヨン 片付けるよ。ほかにパンもあるし、クラムチャウダーを飲んでみてよ。絶品だから。その、野菜も、農薬を使つてないし、健康に、いい……（俯く）。

ヨン、ゆっくりとあとずさりしていく。
あの男、さうのかたわらにしゃがむと、無理矢理さうの口元を片手で掴み、上を向かせる。田をぎゅっと瞑るさう。

ヨン、踵を返して去っていく。

あの男、さらを凝視し、ニヤリと笑う。

男
サラ、チャン。

不気味な声が聞こえた瞬間、照明、さらとあの男に注がれる。

あの男はそのままさらを仰向けに倒す。逃れるために抵抗し、声をあげようとするさら。体を押さえつけるため、さらの上にまたがるあの男。真上から、

男
サラチャン。サラチャン！

あの男、笑い始める。

さらの口を塞いでいた手を離し、他方の袖口をまくる。そのあとまたすぐに口を塞ぎ、腕まくりをしたほうの腕を天高くまっすぐに上げる。

そして大きく口を開け、縮こまつたさらの喉元に勢いよく喰らいつく。すぐに暗。

17 告白

溶明。舞台には放心した状態で腰を抜かしているさら。あの男は遠くからさらを見ている。あの男の反対側から由梨が入る。こちらも、さらからある程度の距離。

由梨 もう一時間よ。ラムもチャウダーも、あたため直さないと。
さら ……なんなんですか。

由梨 ん？

さら ちょっとくらい、心配にならなかつたんですか？ どうしてるかなつて、気にならなかつたんですか？

由梨 ならなかつた。

さら あなたたちの父親は！ 酒飲んで暴力ふるつてたんでしょう？ そんな男に女の子ひとり残して、よくも逃げられたもんですね！

由梨 ……。

さら お母さんが、あなたのお姉ちゃんがこれまでどんなふうに生きてきたのか、今どんなふうに生きているのか、私なんかよりずっと、ずっとアンタたちのほうが気にして当然なんじやない？！ 罪悪感とかないの？

由梨 ……私は母と暮らした。母は見えない所で泣いていた。女手一つで私を育てた。イスランドからひとり日本へ、東京へと移住した母。でも行ったのは間違いだった。行くべきじやなかつた。だから私は母を、この地へと連れ帰つた。「故郷」。自然も人も雄大で、美しい。私は、母ひとりを愛する」とで精一杯だった。今は二十四時間手厚い介護を受けられる。そう遠くもない。いつでも会える。(息を吐く)「めんなさい。

さいひ　……するい。……アンタばかりするい……！

仔羊の鳴き声。顔をゆがめるさいひ。

由梨、さいひの田をまつすぐに、鋭く、且つ、慈悲のある田で見つめる。

由梨　どうして來たの？

さいひ　……？

由梨　わたしに怒つてる？

さいひ　当たりまえじゃないですか。

由梨　ほんとうに？

さいひ　は？

由梨　相手は、ほんとうに、わたし？

さいひ　……。

由梨　私の母でもない。あなたはほかの何かに怒つてる。

さいひ　ほかのつて……、

由梨　自分の気持ちをつかまえて。隠さず、田を背けずに。

由梨、さいひの正面に膝をつく。

由梨　あなたは一人じゃないのよ。

照明・薄暗くなつていく。

さいひ（首を横に小さく振る）もう……、なんなの？　むかつく……！　もう、やだ、もう嫌……！

あの男、スマホのライトを点灯させ、さいひへと向ける（動画撮影）。

さいひ　いつも、消えてくれない。ずっと、すぐ近くに、どこにでもいる。みんなアイツに見える。

由梨　アイツ？

さいひ　わたしを、ぐちゃぐちゃにした。

由梨　男？

さいひ、頷く。

さいひ　だつて、どうしたらよかつたの……？

由梨　聴かせて。はじめから。

さいひ　イヤ……、

由梨　好きにさせたら駄目。あなたの人生を、そいつの好きにさせれるな。

あの男、さらの手を取り、強引に引いて歩く。引きずられていくさら。
少し離れた所で、手を離すあの男。さらには背を向けた状態で止まる。

さら ……神社。神社に連れていかれた。建物の、裏側。薄暗い、湿ったところ。夕方、もう帰ろう
と思ったのに、無理矢理、やだつて言つたのに、
と思ったのに、無理矢理、やだつて言つたのに、

あの男、振り返り、さらを見下ろす。

さら、逃げようとするが恐怖で体がうまく動かず地を這う。
仔羊の声。地べたに丸くなるさら。

男 さらちゃん。
さら アイツは、
男 さらちゃん。
さら スカートをまくりあげた。
男 さらちゃん。
さら 脱がされて、
男 さらちゃん。
さら 触られた。
男 さらちゃん。

男、さらを無理矢理あお向けてにして、またがる。

さら やだ、やだやだやだやだ、

あの男、さらの口元を片手で押える。声にならない悲痛な叫びが、鈍く響く。
暗。さらの胸の上に置かれたスマホの光だけが、かすかに漏れている。口元を掴んでいた手が、ゆっくりと離れる。

静寂。

さら バツン——音がした。わたしが、裂けた音。

あの男、スマホを手に取り、裏表反転させる。あの男のニヤけた顔が闇に浮かぶ。
徐々に、さらから離れていく。（スマホの光、消灯）
溶明。あの男は去らず、スマホの画面をじっと無表情で見ている。

由梨 最低な男。
さら ……。

由梨 いつのこと?

さいら 四年前。中一のとき。

由梨 相手は?

さいら 高校生……、近所の知り合い、お姉ちゃんと同い年……、私が、誤解させた、

由梨 違う。

さいら ただ話すだけだと思つてた……、もつとちやんと言えば、

由梨 言つても聞かない。そいつはあなたを軽んじた。あなたの声を聴く気がなかつた。子どものこころにつけこんだ、その鬼畜が100%悪い。

さいら スカートを穿いてても?

由梨 なに?

さいら スカートを穿いて、肌を出してても、私は悪くない?

由梨 当然よ。

さいら メイクもしてた。リップとか、チークとか、友だちと遊んだ帰りだつた。

由梨 化粧も服も関係ないの。ズボンを穿いていても、膝元まで下げられたら歩けなくなる、逃げられなくなる。だからズボンの人を狙う奴だつているのよ。

さいら ……。

由梨 こつちが何をしても襲う奴は襲う。襲われないために自由を制限されるなんて間違つてゐる。女性に自衛を求めるのは筋違ひなの。襲う奴が悪いに決まつてゐる。私たちがどんな服を着ていいようと、どんなに夜遅く出歩いていようと、相手の家でお酒を飲んだとしても、襲われて仕方がない理由にはならない。

さいら でも、

男 そんなの理想論だろ。

さいら 無理だよ、

男 あー彼女ほしー、童貞卒業してえー。

さいら 通じない、

男 こいつなんかエロくね? イケるんじやね?

さいら もう遅い、

男 あー、マジ使えるわコイツ。

さいら 笑つてた。携帯で、動画撮つてた……。アイツがどつか行くまで、二年近く……いつも、呼び出されて、何回も、何回も……、

由梨、震えるさいらを抱き締める。

由梨 いいのよ、

さいら ……)わい……、(由梨にすがりつくように、)さみしかつた……、

由梨 涙があふれる。

さら こんなのは誰にも言えない……！

しっかりと受け止める由梨。あの男、二人のかたわらに立ち、見下ろす。
さら、怒りを吐き出す。

さら 女に産まれただけで命がけ。こんなのは不公平。

男 「子どもを産め」

さら 子宮から墓場まで。女に面倒みさせ続ける。そのくせ女を邪魔者みたいに、要らないときだけ無視して、支配する。娘をレイプ、教え子をレイプ、通りすがりにレイプ、酒を飲まされ薬を飲まされ集団レイプ。それでも不起訴、再犯を繰り返す。示談、不起訴不起訴、有力者のツテでもみ消そうとする。抵抗する余地があつたって？ 証明しろって？ お前が悪いんじやないかって？ 被害者に厳しくて加害者に優しい。SNSでもセカンドレイプ。ほんとに幼稚で心がなきすぎ。どれだけ軽く見てるんだつつの。男性優位の社会の中で、女の意見をどれだけ聴いてる？ 男だらけの政治の陰で、いつでも女が血を流して。テロ対策でサニタリーポックスは撤去される、医学部入試で得点を操作される、大事な試験日を狙つて痴漢される、トイレを盗撮される、ネットに晒されて販売・拡散、リベンジポルノに怯えて過ごす、レイプ動画に脅され続ける……地獄だよ、死んだほうがマシ。

由梨、あの男を睨みつけている。あの男も視線を合わせ、そのまま、二人から離れて去る。
少し落ち着いたころ、さらから体を離す由梨。

由梨 肉を食べないのは、あなたの自由よ。だけど家畜と自分を重ねるのはやめなさい。

さら ……。

由梨 あなたは無力じゃない。あなたは人生を、自分の力で歩んでいける。あなたの心と体はあなたのもの。自分の命を取り戻すのよ。

さら ……どうやって、

由梨 しばらくここで暮らしなさい。

さら え？

由梨 ちょうど人手がほしかった。

さら どういうことですか？

由梨 ここで仕事をしながら、勉強するのよ。

さら 勉強？

由梨 日本の高校生が習えないこと。アイスランドには実績がある。見習うべき歴史がある。この地で、先進的な文化を肌で感じてほしい。そして女性学や社会学の門戸を叩く機会にしてほしい。私は必ずあなたの役に立つ。

さら なんで、急に、

由梨 （小さく息を吐く）……母は再婚したくないって、その理由は教えてくれなかつたけど、きっと私のためでもあつたんだと思う。母の姿にたくさんのこと教わつた。愛してくれた。あな

たには大人として、女性として、一応あなたの叔母として、できることはしたいと思う。今さらだけど。

さうでも、さすがに、相談しないと。

由梨 私からも話すわ。

さら え?

由梨 別に嫌ってるわけじゃないから。

さら 旦那さんには、相談とか、

由梨 (笑み) あの人こそ大丈夫。自由な人よ。生まれも育ちも、だから、勉強の助けになつてくれるわ。

さら つていうか、学校あるんですけど。

由梨 夏休みはいつまで?

さら 三十日です、八月。

由梨 ……「Kvæmafrídagurinn」。英語で「Women's Day Off」。一ヵ月後の十月二十四日。ジェンダーパートを訴えるためにストライキを起す日よ。

さら ウーマンズ・デイ・オフ。

由梨 男女の所得格差から、適切な労働時間を割り出して、そのぶんだけ勤務するの。仕事中に職場から一斉に女性がいなくなつたら、どうなると思う?

さら 困る。

由梨 そう。女性も立派に国を支えていることに、多くの人々が気付いた。一回目の1975年、女性たちの声は国民を、政治をも動かすことになった。五年後には世界初の女性大統領がうまれた。今では議員や管理職の四割は女性。育児に関する制度も多くて、育休は夫婦合わせて九ヵ月。男性の取得率は八割。子どもを連れての出勤も、職場の理解が得られてる。ストップや売春は違法。DV加害者への法的措置も制定されてる。警察は必ず動いてくれる。それでも格差はなくならない。収入のことだけじゃない。社会の根底にある女性蔑視への抗議のために行動するの。私たちはハラスメントや暴力には屈しない、決して黙らない。

(さらの手を握り) この手で、そのからだで、その声で社会に、世界に示してみせるのよ。

さら なにを……?

由梨 私たちという者を。

目に涙をたたえるさら。

由梨 社会の認識を変えるの。支配していい「モノ」じゃない。自由な「人間」だと。

さら (頷く)

由梨 あなたは一人じゃない。私たちは諦めない。さら。その力を、どうか貸して欲しい。

さら (何度も頷き) はい。

辺りが緑に色づく。

ふと空を見上げると、オーロラが揺らめいていた。

由梨 運がいいわね。
さら ……す（ぎ）い。

さら、涙をぬぐう。

18 主張

ヨンが入り、光が集まっていく。さらと由梨は去っていく。

ヨン 窓越しに聴こえてた。サラさんの声が、僕の時間を止めた。湧き上がるこの熱は、恥、恐れ、嫌悪、怒り。女性というだけで痛みを強いられそのうえひとからモノのように扱われる、扱つていいと誤認させる社会に世界に今なお僕らは生きている。ふと目にする広告・商品として、女性が搾取・消費されてる。家で、神社で、公民館で、駐輪場で、駅のホームで、いたるところで僕らの友がレイプされている。家族に、知人に、見知らぬ誰かに。そんな地獄に疑問も持たずに誰かの叫びも、口を塞いで無きものにする。それは誰が、誰が変える。誰が変わらなければならないか！ それは僕だ。声をあげるべきは僕、そしてキミだ。『男性』というだけで得てきた特権を自覚するんだ、そして不要だと言つて突き放せ。相手が『女性』といふだけで侮辱的な行いを正当化する人から、目を逸らさずに糾弾するんだ。男だろうが女だろうが僕らはみんなおんなじ人間。みんなオギャアと母から産まれ、ただ安心して毎日を過ごしていきたい、その権利が、すべての人にあるべきなんだ、なのに無い。故意にもしくは無意識に、誰かに心を削らせている。その痛みにせめて気付こう、声を聴こう、真に共感できずとも敬意を払おう。その血は、その骨は、その肉は、その精神は、すべてみなと同等であり且つ『個人』を讃える象徴なんだ。ルックスや『性的』かどうかでひとを見るのはやめよう、決して誰かのトロフィーにはなり得ないんだ。今すぐやめよう、意識を変えよう、心を知ろう、からだを知ろう、人としての権利について考えよう。今、その胸に湧いた力を、今すぐ、思考に、反映、させて、反復、反芻、反抗、社会に、世界に、差別に、奴らにNO！

あの男、入る。ヨン、あの男へ顔を向ける。
体もむけ、胸を張り、毅然とした態度で視線を放つ。
あの男はヨンに、ずんずんと近づいていき、彼の胸倉をグイと掴む。
睨み合う二人。
あの男はヨンの腹を一発殴り、うずくまるヨンに蹴りを入れる。
仰向けに倒れたヨンを見て鼻で笑うあの男。
去ろうとして背を向けたあの男の脚を掴むヨン。

ヨン お前じゃない……、お前は相応しくない！

あの男はヨンを振り払い、頭を踏みつける。

男
キモツ。

ヨンに唾を吐いて去る。

ヨン、しばらく動かすにいたが、震えながら立ち上がる。

あの男の去ったほうへ、雄叫びをあげながら全速力で駆け出すヨン。去る。
溶暗。

19 連絡

翌朝。携帯電話の鳴る音が響く。溶明。

さる、目をこすりながら携帯電話を取り、画面を見る。『お母さん』の表示。
映見、入る。

さら ……。（受話）

映見 もしもし？ さら？

さら うん。

映見 今どこにいるの？

さら ……、アイスランド。

間。

さら お母さん。私、
映見 すぐ帰ってきて。

さら え？

映見 水島さんから連絡があつたよ。

さら めいから？

映見 ううん。めいちゃんのお父さんから。

さら お父さん？

映見 めいちゃん、入院してるので。

さら 入院？ なんで？

映見 数年前、お母さんが病気を患つたころから、ずっと不安定だつたんだって。亡くなるころにはひどくなつて、お薬を飲んでたそよ。

さら 薬……、病気つてこと？

映見 双極性障害。気分の波が、極端に激しいの。ひどく落ち込んだり、そうかと思えば異様に明るくなつたり。最近はちゃんと薬を飲んでなかつたみたい。

さら それ、怒りっぽくなつたりもする？

映見 うん。よく喋ったり、衝動が抑えられなくなる。

さら ……（頭を抱える）。

映見 心当たりがあるの？

さら わたしのせいだ。

映見 なにが？

さら 今、めいはどうなってるの？

映見 あなたと空港でわかれたらあと、迎えにきたお父さんと喧嘩になつたそうよ。暴れて、手がつけられなかつたって。それで、……。

さら なに？

映見 車で家に帰る途中、走つてゐる途中で、後部座席のドアを開けて、外へ飛び出した。

さら ……。

映見 ちょうど橋の上で、めいちゃんは、欄干に足をかけて、飛び降りようとした。

さら 飛んでないんでしょう……？

映見 うん。でもずっと泣いてて、何をするかわからない状態だからって、それで入院になつたらしい。

さら ……聞いたの？

映見 めいちゃんね、あなたが心配で、「連絡させて」って、泣き叫んでたつて。それで分かつたらしいの。あなたも一緒で、もうそつちに行つてるつて。だからうちに電話がきた。

さら めい……、

映見 今は面会できないけど、無事は知らせられる。きっと安心するわ。

さら ……「めん、ごめんなさい、お母さん。

映見 ううん。どうしてアイスランドに行つたか、杏奈から聞いたよ。

さら お姉ちゃんのこと怒らないで。

映見 怒らない。お母さんが悪い。さらの相談にのつてあげられなかつた。

さら （首を横に振る）

映見 賴りなくてごめんなさい。

さら やめてよ、お母さんなんにも悪くないじやん。お母さん、いつも私のこと考えて、優しくしてくれるのに、わたしが言うこときかない、わがままだから……、臆病だから、

映見 そんなことない。だつて、自分の知りたいこと、求めて、探しにいつたんでしょ？ 強いよ。

さら 私、今まで、したいことほんとはたくさんあるのに、無いことにした。我慢しなきやもつと

辛くなるからつて、どんどん、どんどん自分がわからなくなつて……。でも、ここまで来て、気持ちが救われた。我慢しなくていいんだつて。認められるものなんだつて、わかつた。

映見 （何度も頷く）
さら そつちには、二十八日に着く。予定通り。

映見 そう。

さら 由梨さんに、まだ聴かなきやいけないこと、たくさんあるから。

映見 わかつた。お父さんには説明しておく。文句は言わせない。

さら ありがとう……。

映見（大きく息をはく）待つてゐる。

さう。

映見 あと、少しかわつてもらえるかな、電話。妹に。

さう わかつた。

さう、部屋から出る。由梨、入る。

おはようございます。

由梨 どうしたの？

由梨 電話、かわつてもらえますか。

由梨 誰？

由梨 お姉ちゃんです。あなたの。

由梨 ……。（受け取る）

映見と由梨、電話で話し始める。

20 帰国

さら 帰国までの三日間。私は町を見て回り、話を聴いて、多くの文化と壮大な自然に触れました。

由梨 わかりました。任せてください。

映見 ありがとうございます。娘の、力になつてくださいって。

穏やかな表情の姉妹。

ヨン、さらの荷物を持って入り、渡す。映見、去る。

ヨン あつという間だつたね。

さら お世話になりました。

ヨン 今度は冬に来なよ。また別世界だから。

さら（頷く）でも今度は、もつと落ち着いて滞在したい。だからそうできる日までは来られない。

日本で、やることがたくさんある。

ヨン（頷く）僕も、僕だからこそできる」とをやるよ。世界が良くなるように。

さら みんなの力で。

ヨン（強く頷く）（泣きそうになる）

さら 泣きそうなの？

ヨン そんなことない。

さら（微笑み、）

さら、手を差し出す。

さら 握手。
ヨン (涙をこらえて)

二人、握手。

さら 由梨さん。
由梨 気を付けて。
さら お世話になりました (深く礼)。
由梨 胸を張って生きて。
さら はい。

さら、にこりと笑つて去る。 (着替きかへ)
見送る二人。

由梨 いくわよ。

ヨン 母さん。

由梨 ん?

ヨン 誇りに思うよ。
由梨 なにを?

ヨン 僕の、周りにあるものすべて。

由梨 ……世界には、いろんな分野で、新時代への改革を進める若きリーダーが大勢いる。思
い
浮かぶでしょう?

ヨン (頷く) みんな強い意志を持つてる。

由梨 私たちも、立ち止まつてはいられない。

由梨、歩きはじめる。あとを追うヨン。
二人、去る。溶暗。

21 先へ

さらが照らし出される。
制服姿。スカートを穿いている。

さら 八月二十八日。日本時間二十時五十五分。わたしは地元に帰ってきた。三日後の始業式、
めいは来なかつた。一週間。一ヶ月。そして二ヶ月が経つた、あるお昼休みのこと。
教室。薄明かり。

さら 起立、気をつけ、礼。ありがとうございました。

昼食。さら、お弁当の包みを広げる。

さら いただきます。

箸が進まない。俯くさら。

そへ、めいがゆっくりとやってくる。遠くから、声をかける。

めい 会えた?

さら、かすかに聴こえためいの声に、ゆっくりと顔を上げ、教室の出入口を見る。めいと分かった瞬間、一気に駆け出す。照明、赤らんでいく。歩き出していくめいに勢いよく飛びかかるようにして抱きつくさら、泣きじやくる。子どもをあやすようなめい。

さら 会えたよ、

めいのからだから顔を離し、見つめ合う2人。ふいに、さらのほうからキスをする。数秒ののち、さらは再びめいに顔をうずめる。

めい、さらの頭に手を添え、なでる。

目をつむる一人。

やがて、めいからゆっくりと離れるさら、前を向き、

さら 私は、恐怖で見えなくなっていた悲しみを、怒りを、解き放つ。あのころの被害を、家族に、弁護士に、警察に、打ち明けることにした。正直、私にとつて辛いことしかない。家族にも、背負わせてしまった。それでも、声をあげなきや分からぬ。黙っていたなら変わらない。もう、私と同じような目にあう人がいなくなるように、被害を隠さなくともいいように、そんな社会にするために、私は闘うこととした。政治が、教育が、人の意識が変わるもので。「今さら」なんてことはない。ひとりの人間として声をあげる。だから、生きていく。